



国立大学法人

宮城教育大学 附属図書館ニュース

ISSN 1348-1525

こもれび

KOMOREBI

MIYAGI UNIVERSITY OF
EDUCATION LIBRARY NEWS

No.124

2013.7.22 発行

特集

もっと知ろう! 宮教大の 児童書

CONTENTS

- 02 図書館インフォメーション
- 04 私と本
- 06 特集 もっと知ろう!
宮教大の児童書
- 07 子ムエの本棚
- 12 歴史のなかの教科書
- 14 学生の読書室
- 16 宮教大図書館の裏話
本学教員等著作寄贈図書一覧



知の海へ 漕ぎ出せ

附属図書館長
遠藤 仁



夏の風物詩「雷」は、『仙台言葉以呂波寄』(1720)に「おかたち様」とあり、古くは「神立ち」(神が現れる)に由来する語が用いられた。一方、幕末以降、「オ+ライ(雷)+サマ(様)」の転じた「オレサマ」が台頭し、今も仙台弁に息づいている。ほどなくオレサマが大暴れしてニューバイがキマリ(梅雨が明け)、夏季休業だ。良書との出会いを期したい。

グリーンカーテン 設置しました



昨年に引き続き、環境教育実践研究センター島野智之准教授のご協力で、図書館南面に、グリーンカーテンを設置しました。今年は、朝顔のほか、枝豆、キュウリ、ゴーヤなどを植えています。幼児教育コースの皆さんがまいてくれた、「いのちの粘土団子」からは、何が出るか、お楽しみです。夏の館内環境の改善を目指したこの企画、皆様には植物の成長も楽しんでいただければと思います。

成長の様子は、Facebookで、日々記録中です。

Facebook 宮城教育大学附属図書館グリーンカーテン観察日記

<https://www.facebook.com/MUEL.GreenCurtains2013>



図書館ボランティア、 今年度も始まりました

図書館ボランティア:MUES(みゅーず)の今年度の活動が始まりました。2年目は7名で活動します。今年度は、講演会の企画だけでなく、図書館の仕事も盛り込む予定です。活動の様子は、随時ツイッターで報告します。@MUES_muelibrary





図書館教養講座 開催しました



6月12日、今年度第1回の図書館教養講座「海外を知ろう1」を開催しました。教務課藤原忠和氏のアメリカ体験、附属図書館吉植庄栄氏のインド体験のお話です。今までのイメージと少々異なる海外話に出席者は盛り上がっていました。



7月4日、第2回図書館教養講座「海外を知ろう2」を開催しました。ミャンマー出身のティン=ミンソー(Tin Minsoe)さん、ウズベキスタン出身のハビブラ=バキエフ(Khabibulla Bakiyev)さん、サヴィロヴァ=ドウルダナ(Sabirova Durdana)さんの3人の留学生に、出身国のお話や、日本に来て驚いたことなどを話してもらいました。

読書につながるさまざまな活動をお届けする図書館教養講座。今年度は、海外を知ろう3(台湾)、ビブリオバトル、レポート作成法、クリスマスカード作り、SNSのお話など多彩なラインナップでお届けします。お楽しみに。



学生選書 入荷しました

図書館の資料を選ぶことを「選書(せんしょ)」といいます。学生の皆さんに、今年度の第1回の選書をしてもらいました。図書館入口の黄色いブックトラックに展示しています。もちろん貸出することができます。学生の目で選んだ資料を、皆さんもぜひ共有してください。



読書ポイント 間もなく終了



平成24年10月から実施している読書ポイント制度ですが、本年8月5日で終了します。

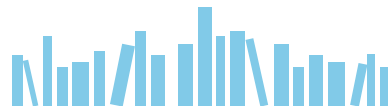
レポート・試験期の読書で景品を入手してくださいね!



私と本

Book Talk

本学教員・職員の方々の
本との付き合い方をご紹介します



教務課
学部教務係

大庭なつみ

小さな図書館

私の家には“図書館”があります。“図書館”といっても本数は150冊にも満たず、利用者も姉ただ一人といった具合のかなり小規模なものです。何を隠そう、“図書館”とは私の所有する小さな本棚のことなのです。

この本棚を“図書館”と名付けたのは姉でした。姉は、私の知らぬ間に本棚をあさり、自分の気に入った本を持ち出して、その後で「この本、図書館から借りたよ」と報告してきます。そのようなことが何度も繰り返されるうちに、いつの間にか私も、この本棚は姉にとっての“図書館”なのだと思えるようになってしまいました。そして、その頃から本棚に並ぶ本に対する私の意識が変わってきたのです。それまでは、ただただ漠然と買った本を並べていましたが、本棚が“図書館”と呼ばれるようになると、素人ながら「良い本

を並べたい」と思うようになり、「是非この本を読んでみて」と言えるくらいのお気に入りの本を選んで並べるようになりました。そのように選んだ本ですから愛着を感じますし、その本が“借りられる”と嬉しくなります。また、そのような本が増えていくことも喜ばしいことです。こんな風に、小さな“図書館”は出来上がりました。

とはいえ、最近は本を買うことも読むこともなかったため、本からは遠ざかった生活を送っています。“図書館”に並ぶ本の顔触れも、しばらく変わっていません。近いうちに“図書館”に出向き、昔読んだ本を読み返したり、新しい本を並べたいと思っています。



小さな図書館

父が残してくれたもの

私は子どもの時から落ち着いて本を読むことが苦手で、読書感想文を課された時以外、ほとんど本を読みませんでした。大学生になってから、ようやく専門領域の本を読むようになりましたが、現在でも教育や障害児教育関連以外で文字ばかりの本を読むことはほぼありません。

これまで読んだ数少ない本の中で、今もよく覚えていて、実家に残してあるのは、母から薦められた灰谷健次郎の『砂場の少年』と父から薦められた吉川英治の『三国志』だけです。どちらも読書感想文のためでした。前者は教育の分野を志すきっかけにもなった本で、養護学校の教師だった母にはその後も大きな影響を受けています。

一方、頑固で厳しい中学の社会科教師だった父は、7年前に他界しましたが、あまり話もせず、特に影響を受けていないかのように思っ生きてきました。今回、“本”について思い返してみると、実家には父から薦められた横山光輝の『項羽と劉邦』や『史記』、

『水滸伝』『三国志』等の漫画がずらっと並んでいます。そして、小学校の頃は父の部屋の『漫画・日本の歴史』シリーズを読み漁っていたのを思い出しました。頭が固かった父が漫画を薦めてくれたこと、実はその影響で社会科の中でも歴史はずっと好きだったことを、今改めて思うと少し父に近く感じられます。

もし今後子どもが出来たとしたら…。今私の部屋にあるのは古谷実等の暗めの漫画だけです。正直、まともに本が好きなのは妻の影響を受けてほしいと思います。今後、将来子どもにも本を通して尊敬されるよう下心をもってそれっぽい本を買っておくのか、好きな漫画を買い続けるのか…。実家の横山光輝作品を送ってもらって、父から私の子どもへ、というのでもいいのかなと思います。



『三国志1 桃園の誓い』(希望コミックス 16)
横山光輝著、潮出版社、1974年4月発行

結局は…?

思い出せる限りにおいて、私は読む事が嫌いな子どもだった。特に小学校の頃には、与えられた“My図書カード”のスタンプが増えていくのが楽しみで、図書室の本を頻繁に借りてはいたが、実のところ、中身を讀んだことはほとんどなかった。だから、その当時、どのような本を借りていたのかさえ、全く記憶に無い。お決まりの読書感想文の宿題などは、「あとがき」の文章を適当に丸写しして、とにかく宿題を提出するだけで精一杯だった。

ようやく本を読み始めたのは、中学校も半ばを過ぎた頃だったと思う。きっかけも最初に讀んだ本も忘れてしまったが、なぜかSF小説や推理小説の世界にどっぷりとハマった。それまで活字に触れていなかったことが逆に幸いして、砂漠に水を落とすがごとく、寝る間も惜しんで本を讀んでいた。お気に入りの本を数え上げたらキリがなく、強烈な個性を持ったキャラクター達が、宇宙空間やハードボイルドな世界を縦横無尽に駆け巡る様に魅せられた。日々繰り返される無意味で退屈に思えた日常から逃避させて

くれる夢の世界が、そこには広がっていた。「本を読む」という異世界の扉を開く行為が、自分にとっては純粋に娯楽と快楽を得るためのスイッチだったのだろう。

あれから、十数年が経つ間、必然的にSFやミステリー以外の本も手に取るようになった。今では本を読むことは日常から逃避するためのスイッチではなく、むしろ、日常に向き合うために必要不可欠なものとなってしまった。

目の前に突き付けられた臨床的な課題や研究テーマを読み解くためのカギとなる、膨大な「知」の体系が文献や論文には詰まっていた、私を魅了している。年を重ねるにつれて読むものは変わってきたが、新しい世界に没頭する際のドキドキやワクワクは中学生の頃と変わっていない。それどころか、より興奮や驚きが増しているようにも思う。

相変わらず、読むことは嫌いだ、未知の世界を探索する魅力には抗えない。

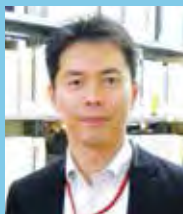


銀河



特別支援教育講座
講師

寺本 淳志



特別支援教育講座
准教授

植木田 潤

自分に会える場所

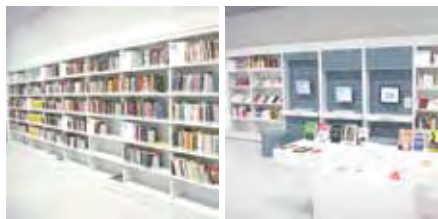
僕はよく森へ散歩しにゆく。木々に囲まれた場所
で耳をすませ、深呼吸するのはそう悪くない。僕は
図書館へも散歩しにゆく。本に囲まれたその中で深
呼吸するのも、これまたなかなか悪くないものだ。

熱心なハイカーでなければ、勤勉な読書家でもない僕が、果たしてそこへ何を求めにゆくのか？ 森へゆけば様々な種類の樹木や
草花に出会える。木の葉のざわめきや水流のささやきが僕を日常の枠組みから解放放つ。土のにおいが君を優しく包み込む。

図書館の中を散歩していると、行儀良く並んだ色とりどりの本たちが棚の奥から君のことを出迎える。本は読まれるか読まれない
かにかかわらず、デザインされた景観の一部分としていつもそこにあるのだ。訪れるものの心模様を映す鏡のように。迷ったときに問
いかけてくれる森の木々のように。

仙台にメディアテークがあるように、StuttgartにStadtbibliothekがあるように、宮教大には附属図書館 (Universitätsbibliothek)
がある。本を所蔵しておくだけのスペースではなく、注意深く耳をすませると聞こえてくる小動物の息づかいが、樹冠から差し込むこ
もれびが、まるで道化師のようにそこでは意気揚々と踊っているかのように僕には見えるのだ。

“コモンズ”という言葉、聞いたことがありますか？ 語源はcommonから来ています。現代では「何かを共有する空間」、「一緒に何
かを創り出す場」という意味でも使われているそうです。そう考えると図書館は僕にとって、確かに、「大学受験という通過儀礼を他
のひとと共有した場」であり、「時代の先駆者たちが刻んだ、研究者の熱い心
を共有した場」でありました。これからも世代と地域を越えて何かが共鳴し
続ける場所。そしてまた、どう共鳴するかを知ることによって自己に内在する
固有の情動や姿勢を確認できる場所。自分に会える場所。
--そんな風に思っている僕は今日も森の中を走り続けるのです。



Stuttgart Stadtbibliothek: Photographs were taken by Yasushi Kobayashi



Stuttgart Stadtbibliothek: Photographs were taken by Yasushi Kobayashi



理科教育講座
准教授

小林 恭士

本 = 教科書

漠然と「本」という単語について考
えた時、私が真っ先に思い浮かべた
のは「教科書」でした。それは、つい
最近まで、学生として教科書や参考
書に触れる機会が多々あったためか
もしれません。だからといって、本に対して「堅苦しい」「小難し
い」といったマイナスのイメージばかり持っているわけではない
のです。たしかに、私にとって「本」は知識を与えてくれる「教科
書」そのものと言えます。しかし、本から得られる知識は、学術
的なものだけに留まらず、日常のちょっとした知恵に至るまで非
常に多岐に渡っています。

例えば、大学生の時、専門用語の山を前に頭を抱える私を、
先輩にお借りした専門書が大いに助けてくれました。膨大な情
報量を誇るインターネットを駆使しても解明できなかった英単語
の意味が、片手に収まるほど小さな本の中で、分かりやすくか



英語の専門用語の山

つ丁寧に解説されているのを目にした時は、ちょっとした感動さ
え覚えたほどです。

また、日常生活の中で、何気なく手に取った小説で目にした
調理法を試してみたところ、驚くほど美味しい料理が作れたこ
ともありました。その際参考にしたのはレシピ本ではなく、
高校生の何気ない学生生活を描いた青春小説でした。

専門用語も、美味しい料理の作り方も、私にとっては等しく本
が教えてくれた「知識」に他なりません。手に取った本が専門書
であろうと、小説であろうと、その本を読んだ時、何か新たな知
識を得たと実感できたならば、その本は私にとっての「教科書」
となるのです。

大学を卒業して、社会人となった今でも、毎日新たに学ばな
ければならないことがたくさんあります。おそらく、これから先も
ずっと様々な知識を学び続ける日々は終わらないのでしょう。そ
んな時、どんな形であれ知識を与えてくれる存在が傍らにある
のは非常に頼もしいことです。これからも頼れるパートナーとし
て、本と共にあり続けたいと思います。



研究・連携推進課
連携推進係

若生 梨香

変わる、本との付き合い方

4月1日付けで他大学から、宮城教育大学に赴任しました鶴
岡と申します。小・中学生の頃は、図書館で欧米の文学、例えば
シェイクスピアや、ミヤエル・エンデ、C.S.ルイス、ヴィクトル・ユ
ゴーなどを読みました。ナルニア国物語が映画化されたときは、
それはもう「昔読んだことがある」と、自慢でした。大学時代は、
本屋でアルバイトをしていたので、売れ筋の作品名と著者名だ



旅窓 (本人イメージ図)

けは、人より覚える機会が多く、本とは切っ
ても切れない関係が続きました。雑誌のオ
マケがもらい放題だったのは良い思い出で
す。

社会人になってからは、あまり本を読まな
くなりました。嫌いになったわけではないの
ですが、完読するまでの忍耐力がなく、い

つも途中で投げ出してしまいます。前の職
場で、学生対応の職務上読むのを勧めら
れた(職務上以外の他意があった気もしま
すが)、『片づけられない女たち』という本
については、意地と悔しさをゆえに読破を誓
いましたが、結果は・・・お察しください。



旅行した気分

今では、読むのは旅行雑誌ばかりにな
り、家にストックしてある行った事のない国のガイドブックを見て
は、お金をかけずに旅行した気分浸っています。この文章を書
いたことを機に、手取り早くガラパゴスなどを手に入れて、活
字の小説を読みたいと思っていますが、おそらく忙しさを理由に
一生そうすることはないだろうと思う今日この頃です。



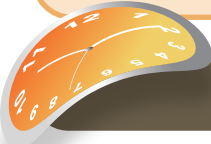
研究・連携推進課
連携推進係

鶴岡 希望

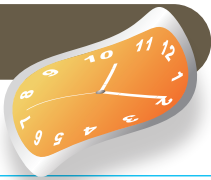
もっと知ろう！ 宮教大の児童書



宮城教育大学附属図書館の蔵書数は約35万3千冊（平成25年3月末現在）。総合大学の図書館と比べれば多いとはいえませんが、昭和40年の開館後、初期から児童書の収蔵に努めてきたことは注目される特色で、現在1万3千を超える冊数の児童書を所蔵しています。今回の特集では、これらの児童書を配架したコーナーの概要を紹介するとともに、児童書について学ぶための参考書籍等についても紹介します。



「児童図書コーナー」ムカシ↔イマ



まず、本学の「児童図書コーナー」の沿革と現状を簡単にご紹介します。

- 昭和40年、開館当初

本学の創立は昭和40年、富沢の仮校舎から青葉山の現在地にキャンパスを移転したのは昭和43年です。現在の図書館はこの時に建てられました。児童書については、一部の教官の熱意や学生の潜在的な要求に基づいて少しずつ収書されていったと、記録からは考えられます。

昭和45年、「児童図書コーナー」の設置

昭和45年、図書館内に「児童図書コーナー」が設置されます。当時の児童書の蔵書数は492冊でした。

平成8年、「児童図書コーナー」のあり方の再検討

その後、平成8年には「児童図書コーナー」の今後のあり方を検討する小委員会が学内に設置されて、児童図書を積極的に収書することの意味や、予算の規模、選書の方式、閲覧方法の工夫などについて話し合われています。その際、児童図書とは「未就学児童から中学1・2年までの児童を対象とする」ものとされ、また「文学書に限らず幼児絵本、科学読み物など」も含むとされました。これを基に定められた、「児童図書推薦要項」という児童書収書の方針は、その後も基本的な考え方として現在まで引き継がれています。

平成19年、「児童図書コーナー」リニューアル

平成18年末には児童書の蔵書数が約1万2千冊になり、それまでの児童書書架スペースが手狭になったことや、スチール書架に暗いイメージがあったことから、平成19年12月に木製の児童書用書架を新規導入して絵本コーナーを整備しました。単に平積みされていた紙芝居も児童図書コーナーの専用の箱に収められて見やすくなりました。この年11月には、絵本・児童書の紹介リーフレット『カムパネルラ』も創刊されています。英語教育講座の藤田博教授（現在は名誉教授）の献身的な協力により平成25年3月（第33号）まで発行されました。

平成23年、現在の配置に

平成23年には絵本コーナーがさらに拡充され、「児童図書コーナー」は現在の形になりました。

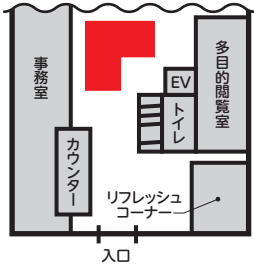
現在（平成25年）～蔵書数・分類・配架等～

平成25年6月現在、児童書の蔵書数は、13,072冊。種類は、文学書、絵本、科学読み物、児童向け美術書、児童向け料理本など多彩で、紙芝居もあります。貸出冊数は年間4,397冊、蔵書の約3分の1が借りられていることになります。（平成24年度）

図書の分類方法は、通常は右図のような分類で分けていきますが、本学では児童書の場合、請求記号（背ラベル）の1段目の頭に「J」とつけて、その後ろに分類記号の一部をつけます。細かく分類しないのが特徴です。



「児童図書コーナー」は下図の赤で示した位置にあります。絵本は、スチール書架からはみ出してしまったため、また親しみやすい雰囲気作りのため、低書架や回転書架に配架されています。



〈図〉

0：総記	5：技術
1：哲学・宗教	6：産業
2：歴史・地理	7：芸術
3：社会科学	8：言語
4：自然科学	9：文学

【宮教大附属図書館児童書の場合】

J91	J91：日本文学
	J93：英米文学
	9の後ろは地域の番号
	J4：理科
	J7：芸術 など

Jとつけるのは
宮教大独自！



JuniorのJだよ！

児童書に詳しくなろう

～児童書関連図書は「児童図書コーナー」の外にも置かれている!!～

次に、児童書について詳しく知りたい場合、学びたい場合に活用できる書籍等について、「児童図書コーナー」の外側にも目を向けてご紹介します。

1 児童書ブックリスト／ブックガイド類

児童書を選ぶための情報が欲しい場合、便利なのは児童書のブックリスト／ブックガイド類です。本学には、日本子どもの本研究会編『どの本よもうかな?』シリーズが児童図書コーナーの「J0」の棚にあるほか、菊地澄子〔ほか〕編『やさしさと出会う本「障害」をテーマとする絵本・児童文学のブックガイド』(019.5/キ/1)やキラキラ読書クラブ編『キラキラ読書クラブ 子どもの本644冊ガイド』(019.5/キ/2)などが1階閲覧室にあります。また、2階閲覧室には日本子どもの本研究会ノンフィクション部会編『ノンフィクション子どもの本900冊』(909/ニ/11)があります。



2 児童文学の事典類

児童文学の作家や代表的作品について知りたいとき、児童文学史において重要な事項についての情報を調べたいとき、活用すると便利なのが事典です。

日本の児童文学について詳しい情報を掲載しているのが大阪国際児童文学館編『日本児童文学大事典』全3巻(909.03/ニ/1-1~3)、日本の児童文学に加えて海外の主要な児童文学作家の情報も掲載しているのが日本児童文学学会編『児童文学事典』(909.03/シ/1,2)で、これらは1階の参考図書コーナーにあります。

その他、イギリスで出版された児童文学事典の翻訳書にハンフリー・カーペンター、マリ・プリチャード『オックスフォード世界児童文学百科』(J90/オ/4)があり、児童図書コーナーに配架されています。また、民話、ヤングアダルト小説、SF、歴史小説、児童詩、児童劇、ノンフィクションなども含む多様なジャンルに目配りして、世界の青少年文学の作家・作品に関する情報を提供する藤野幸雄編訳『世界児童・青少年文学情報大事典』全16巻は、1階の保存書庫にあります。2階閲覧室の請求記号「909」の棚にも児童文学関係の事典がありますので、使ってみてください。読み物としても楽しめます。



3 絵本・児童文学の研究書、読書教育の関連図書

絵本や児童文学の研究書は、主に請求記号「909」の棚にあります。日本児童文学学会編『赤い鳥研究』(J91/ア/8)や日本児童文学学会編『アンデルセン研究』(J91/ア/9)など一部の図書は児童図書コーナーに配架されています。

読書および読書教育の関連図書は、請求記号「019」の棚に多数あるほか、児童図書コーナーにもありますので、「J0」の棚も確認してみてください。請求記号「375」「376」の教育関係書の棚に配架されている書籍もあります。

4 児童文学関連雑誌

児童書・児童文学に関連する雑誌としては、①児童文学史上で有名な少年雑誌や児童文芸誌の復刻版、②児童書・児童文学の今を語る雑誌、などがあります。

①の復刻雑誌を本学附属図書館は積極的に収書していて、明治初期の少年雑誌『少年園』『少年世界』や大正期の『赤い鳥』『童話』、戦後早い時期に刊行された『赤とんぼ』など、著名な復刻雑誌が2階の雑誌書庫にそろっていますので、ぜひ手にとってみてください。

②の児童書・児童文学の今を語る雑誌で、児童文学研究にも活用できるのは『日本児童文学』、読書指導に活用できる児童書情報が充実しているのは『子どもの本棚』です。最新号は新着雑誌の棚に、バックナンバーは2階の雑誌書庫にあります。



5 児童書についてさらに詳しくなりたい場合は?

情報収集の手掛かりとして、「国際子ども図書館」のホームページをおすすめします。
<http://www.kodomo.go.jp/>

…おや?
うしろのページが
ザワザワしてるぞ?



子ムエの本棚



子ムエの本棚とは...

児童書に関する話題をお届けする「子ムエの本棚」のコーナーを今号より設けました。宮教大附属図書館の蔵書の特徴のひとつともなっている児童書の魅力をお伝えします。子どもの読書活動の推進に役立つ情報を提供することも目指します。

児童書大座談会!

「子ムエの本棚」第1回を記念して、ビブリオバトルサークル「BIBLion」の皆さんに児童書について語っていただきました!

ビブリオバトルって?

1人5分で本を紹介し、どの本が一番読みたくなったかを投票で決めるゲーム形式の書評会です。

BIBLionとは

2012年12月に発足した宮教大ビブリオバトルサークルです。本を介して人と出会うことを楽しみながら、仙台を中心に活動中です。

参加メンバー



武者 誠彦
(国語教育専攻4年)
BIBLion 部長



渡邊 成
(国語コース3年)
BIBLion 副部長



多賀 陽
(国語教育専攻3年)



大槻 桃子
(聴覚・言語障害
教育コース3年)



藤原 幹伍
(数学教育専攻3年)



戸澤 香奈
(国語教育専攻3年)

附属図書館の児童図書コーナーについて

——宮教大の附属図書館は絵本や児童書の蔵書が多いことが特徴ですが、皆さんは利用していますか。

全員:利用しています!

●**多賀**:私は趣味として絵本を借りて読んでいます。懐かしい本をもう1回読んでみるとまた違う発見があったりするので、思い出に浸ったり、新しい解釈を得たりして楽しんでいます。



●**藤原**:僕は読み聞かせのボランティアをしているので、それに使う本や、授業で読み聞かせの発表をする時の絵本を探しました。この図書館は確かに絵本が多いですね。大型絵本もたくさんあるし...紙芝居も使ったことがあります。

●**渡邊**:僕もほとんど授業関係で使っています。初等教育のコースに所属しているので、児童書を使う機会が多くて。国語のレポートで『ないた赤おに』(浜田廣介作)について書いたり、生活科のレポートで地球や宇宙のことをテーマにした授業について書く時に関連の本を借りたり。主にレポートの参考として使っています。

——児童図書コーナーを实际使ってみて、「こういうところが良い」という点や、「こうしてほしい」という要望などがありますか。



●**大槻**:児童図書コーナー内に椅子と机があるじゃないですか。「これいいな」と思った本を、借りなくてもその机ですぐ読めるのが良いですね。

●**武者**:ちょっと手に取った時に座ってすぐ読んじゃうよね。

●**戸澤**:私は将来国語の教員になりたいと思っているのですが、以前に出身中学校に行って国語の先生にお会いした時に、「国語の教員になるとしたら、読書のすゝめとして教科書に紹介されているような本は読んでおくべき」と言われて。大学生のうちにそのような本を100冊読もうと思って挑戦しているんですけど、図書館には定番のものに比べて新しい児童書はあまり無いので、もっと置いて欲しいと思います。

——毎年先生方に児童書を推薦していただいて購入していますが、確かに選書の機会が少なく購入冊数も多くはないですね。新しい児童書がもっと置かれるように検討させていただきます。

思い出の本、語ります!

——皆さんは子どもの頃からたくさん本を読んできたと思いますが、お気に入りの児童書はありますか。

●**武者**:僕が児童書で一番好きなのはファンタジー小説で、『獣の奏者』。

●**戸澤**:あれって児童書に入るんですか。

●**武者**:あれは大人が読んでもおもしろいし、子どもが読んで楽しめるという意味での児童書、児童文学に入ると思います。子ども向けの文庫本やコミックでも出ていますし。

●**大槻**:子ども向けの文庫本といえば、私は青い鳥文庫が大好きです。初めて手に取ったのは小学生の頃に読んだ、『そして五人がいなくなる』。ミステリーという人が死んだり、暗い終わり方になるの



『獣の奏者(1)闘蛇編』上橋 菜穂子著/講談社
ISBN: 4062137003

が多いと思うんですけど、はやみねさんが描くのは“ハッピーになれるミステリー”。対象年齢は小学校高学年からになっていますが、低学年だった私が読んでもすごく面白かったです。

●**戸澤**：私は小学生から中学生にかけてファンタジーを読むことが多かったです。私達の頃はちょうどハリーポッターなどのファンタジーが話題になった時だったと思うのですが、その中でも特に好きなのはストーリーでは『ダレン・シャンシリーズ』（ダレン・シャン作/小学館）、内容の深みに関しては『ゲド戦記』。小学生の頃に読んだ時は正直よくわからなかったのですが、高校生になっていろいろ勉強をするようになってから読んだら「あれってこういうことを言っていたんだ」と深いところが少しずつわかってきました。大人になってから読むとまた違った見方ができる話だと思います。

●**多賀**：私は小さい頃『すてきな三にんぐみ』（トミー＝アンゲラー作/いまいよしとも訳/偕成社）の話が大好きでした。大学生になってその絵本を買って、ずっと大切に読んでいます。あと私の親が学生時代に出会った本で、『青いかいじゅうと赤いかいじゅう』。いつか子どもが生まれたらこの本をプレゼントしようと思っていた、という話を親から聞いて、父の誕生日にサプライズでプレゼントしようと思って読んでみたら本当に良い本で…あげるのがもったいなくなっただけ(笑)。

●**藤原**：学校の図書室にあった『かいけつゾロリ』シリーズで今でも覚えている好きな話があって、“お金を作っている工場に侵入して泥棒しよう!”というもの。いろいろな方法を使って侵入するんですが…まあ結局うまくいかないというお決まりのパターン(笑)。やっぱり子どもの好奇心っていうのはいたずらや悪いことに行きがちなので、ちょっと憧れるところがあったりするよね。良いことばかりの話だけではなく、悪いことをやっても上手くいかないという話を知るのも大事ななんだと思います。

●**渡邊**：僕は「厚い本を読む自分」という優越感に酔うため、よく『ズッコケ三人組』を読んでいました(笑)。主人公の三人組の体験っていうのが結構身近なものなんですよ。周りの謎を解いていったり、冒険したり…。やっぱり「作ろう!」ってなりますよね、三人組を。ちょっと太めな子と、メガネで頭が良さそうな子と…自分は黒かったのでハチベエ担当だったんですけど(笑)。本に書いてあることを実際にやってみて楽しむ、ということがすごく好きでしたね。

将来先生になったら…

—皆さんは将来、教員になったら子どもと本をつなぐこともあるかと思いますが、「こういうことをしたい」などというイメージはありますか。



●**武者**：自分だったら学級文庫は充実させたいですね。「これおもしろいから読んでみて」って直接おすすめするのもいいですが、子ども達はその棚を通りかかった時にふとタイトルや表紙を見て何かピンと来たら手に取ってもらえるようにしたい。読書が好きな人に読んでもらえる本も、普段読書をしていない人が読み始めるきっかけになるような本も…ジャンルを問わず、おもしろい本をいろいろ置いていきたいと思います。



『そして五人がいなくなる名探偵夢水清志郎事件ノート』はやみねかおる作/村田四郎絵/講談社
ISBN: 4061473921



『ゲド戦記(全6冊)』アーシュラ・K. ルーグウィン作/清水真砂子訳/岩波書店
ISBN9784002042374



『青いかいじゅうと赤いかいじゅう』デビッド・マッキー作・絵/北沢杏子訳/アーニ出版
ISBN: 9784870010253



『かいけつゾロリの大金もち(かいけつゾロリシリーズ)』原田たか作・絵/ポプラ社
ISBN: 9784591057438



『それいけズッコケ三人組』那須正幹作/前川かずお絵/ポプラ社
ISBN: 9784591007761

●**渡邊**：大学に入ってからたくさん本を買っていますが、僕も「将来学級文庫に置きたい」、「授業などで紹介したい」と思って買うことがありますね。



●**藤原**：国語の先生は本を紹介してくれたりしますが、僕は数学専攻なのでなかなか紹介の仕方が難しく…。本を紹介することがあったら「自分が昔こういう本を読んだら…」というような経験談になりますね。もし中学校の先生になったら、授業に役立つというよりは考え方として役に立つ本をいろいろ紹介したいと思います。

●**大槻**：私の出身高校では国語だけでなくどの教科の先生でも結構本好きな人が多くて、いろいろな先生から本を紹介してもらいました。教科が違ふ先生達から話を聞くと、教科の特色も含んだ幅広い視点から紹介された感じで為になりましたよ。

—児童書に関連して、これから学んでいきたいこと、身に付けたいことなどはありますか。

●**多賀**：たくさん絵本を読んで、感動する話に出会って、絵本の知識の幅を広げたいです。何も知らないでその絵本を読んだ後、その作家について「あ、こういうことが元になってこの本を書いたんだ」というような背景がわかると、ちょっと解釈が変わったりしますよね。

●**戸澤**：私は、「これから身に付ける」ではないかもしれませんが、子どもの時の感じ方、感性はできるだけ擦り減らないようにしていきたいなと思っています。

●**多賀**：あとは、読み聞かせの技術を習得したいですね。

●**大槻**：私も! プロの方の読み聞かせを聞いた時、感情移入して泣いてしまう程すばらしくて…。読み聞かせの技術って本当にあるんだなと思いました。

新ジャンル「児童書ビブリオバトル」!?

—サークル活動の中で多くの本に出会ってきたと思いますが、ビブリオバトルで児童書が出てきたということはありましたか。

●**大槻**：私は使ったことがあります。ただ、ビブリオバトルでは児童書、特に絵本は難しいジャンルと言われていて、紹介の仕方にもよりますが票数はなかなか取りにくい。でもページ数が少ない分、短い中に内容が凝縮されていておもしろいので、児童書でも、もっとビブリオバトルをやりたいかなと思っています。

●**渡邊**：公式戦でも児童書を使って優勝した人もいますからね。児童書の難しいところは、ひとつの話がぎゅっと詰まっているから、5分間だと全部内容話しちゃって「こういう話なんだー」で終わってしまったり…

●**多賀**：「導入はどうしよう!?!」という感じ(笑)。一筋縄ではいかないから、紹介する側が工夫しなくちゃいけないですね。でも、全員が児童書っていうくくりでやれば対等に勝負できるかな…。例えば「児童書ビブリオバトル」とか…。

ヤヤ
全員:おあ〜!!

—「児童書ビブリオバトル」、とてもおもしろそうですね。新たな企画としてぜひ実現しましょう。





● 附属小学校図書室から

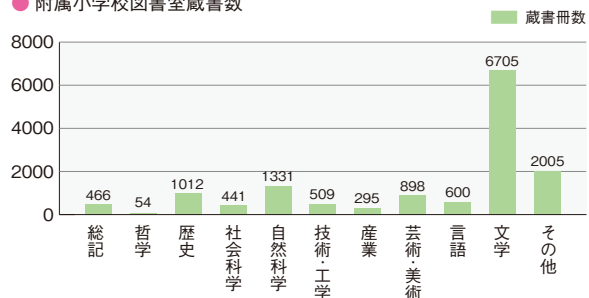
附属小学校図書室の本

附属小学校図書室は現在貸出可能な資料が14,316冊、内訳は左のグラフの通りで、児童たちに人気の文学を中心とし、次いで自然科学、芸術・美術、歴史の順に多くなっています。

文学に分類される資料では、低学年に紙芝居の人气が高く、「おうちんに持って帰ってお母さんに読んであげるの」と、親子で読書に親しむ様子を伺わせてくれる児童もいます。中・高学年になると挿絵の多い児童図書だけでなく厚めの文庫本にも人气が出てきます。

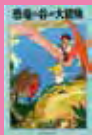
自然科学や歴史に分類される資料では、カラー写真が豊富な図鑑や歴史上の偉人達の生涯をまとめた漫画の人气が高くなっています。

● 附属小学校図書室蔵書数



人気の図書ランキング

人気の高い図書は蔵書数にも表れているように文学作品に集中しています。表は2012年度の全学年での貸出回数ベスト5ですが、低学年では『かいけつゾロリシリーズ』、高学年では歴史上のできごとを漫画にまとめた図書が主にランキングの上位を占めています。『かいけつゾロリシリーズ』は、1987年にシリーズ第1作目が発行された作品であるため、宮教大の学生のみならずも読んでことがあるのではないのでしょうか。教育実習の際等、子どもたちのお気に入り本のついて児童とおしゃべりをしてみると、話が盛り上がるかもしれませんね。

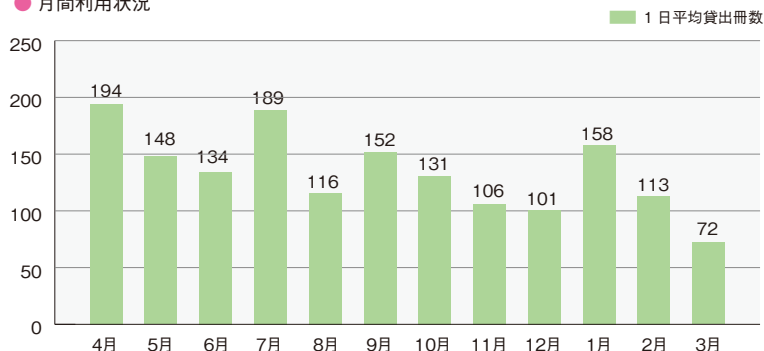
貸出ベスト			
順位	タイトル		著者名
1位	マジック・ツリーハウス1 恐竜の谷の大冒険 メディアファクトリー ISBN:9784840105514		メアリー・ポープ・オスボーン著 食野雅子訳
2位	かいけつゾロリシリーズ かいけつゾロリのてんごくとしごく		原 ゆたか
3位	黒魔女さんが通る!!part12 黒魔女さんのお正月		石崎 洋司
4位	ドラえもんの社会科おもしろ攻略 日本の歴史がわかる1 (縄文時代～室町時代)		日能研
5位	マジック・ツリーハウス16 幽霊城の秘宝		メアリー・ポープ・オスボーン

図書室の利用状況

児童たちは図書室の開放を楽しみにしてくれています。授業の間の休み時間や昼休み等の時間にはたくさんの子どもたちが図書室を訪れ、図書の貸出や返却を行うだけでなく、室内の椅子や畳のスペースを利用して本を読む姿が多く見られます。

教室の中とは違い、様々な学年が集う図書室では、児童たちの上級生らしさ、下級生らしさも見られ、子どもの新たな一面を発見できることと思います。

● 月間利用状況



児童書この一冊!

図書館の児童書の中から、新しく入った新刊本や
おすすめの一冊を紹介します。



NEW!



『ねこのピート だいすきなしろいくつ』

エリック・リトウィン作/ジェームス・ディーン絵/大友剛訳/長谷川義史文字画/ひさかたチャイルド
ISBN:9784893259790 2013年5月発行 請求記号:J93/ネ/24 資料ID:B1007351

ねこのピートはお気に入りの白い靴を履いておでかけ。「しろいくつ かなりさいこう!」…歌いながら進んでいくと、迎り着いたのはいちごの山の上! お気に入りの白い靴がいちごで赤くなってしまったピートですが…。

予想外の出来事に「なんてこった!」と思うことはたくさんあります。そんな時、落ち込んでその場で立ち止まってしまうのか、気持ちを切り替えて前に進むのか。お気に入りの靴がどう変わってしまったもとにかくポジティブなピートに、元気をもらえること間違い無しです。

「かなりさいこう!」な歌の楽譜も付いているので、子どもたちへの読み聞かせにもおすすめです。

(附属図書館)

『……の反対は?』

リチャード・ウィルバー 文・絵/長田弘 訳
みすず書房 ISBN:4622047225 2000年9月発行 請求記号:J93/シ/50-2 資料ID:00500964

「大きい」の反対は「小さい」。「偶然」の反対は「必然」。では、「くたばっちまえ」の反対は…?

学校のテストでは正解を求められますが、この本の問いかけに正しい答えはありません。ひとつの問いかけに答えがひとつとも限りません。単語の反対の言葉が文章になっても、ただ文字を逆さに読んでみても、ふたつ答えを出して「どっちかひとつをえらぶなんて いやだ」と言ってみてもいい、何でも有りの自由な世界です。真面目に考えてしまうと大人でも難しい問いばかりですが、子どもの豊かな発想で考えれば、大人もびっくりの名言が生まれるかもしれません。

頭の中が「?」でいっぱいになり、大人も子どもも一緒に楽しめる一冊です。

(附属図書館)

Pick up!



音楽は時代を映す鏡

音楽教育講座 小塩 さとみ

まだ西洋の音楽を耳にした人がほとんどいなかった明治5(1872)年に学制が発布され、小学校で「唱歌」、中学校で「奏楽」という教科の設置が決まりました。これが現在の「音楽」という教科のはじまりです。しかし「当分之ヲ欠ク」という但し書きが添えられました。どのような内容を教えるかを検討し、教員を育成する時間が必要だったのです。文部省による最初の唱歌集『小学唱歌集初編』が発行されたのは、奥付によれば明治14(1881)年で、同年に公布された小学校教則綱領には、「唱歌ハ教授法等ノ整フヲ待テ之ヲ設クベシ」と書かれています。また文部省が『中等唱歌集』を発行したのは明治22(1889)年です。学校教育における唱歌導入には10年以上の年月を要したことがわかります。当時「唱歌」という教科が設置されたのは、大きな声を出すことで強靱な身体と健全な情緒を育成することができると考えられたためです。

「唱歌」が全国で実施されるようになった時期は、ちょうど教育勅語成立(1890)から日清戦争(1894)の時期と重なります。唱歌は「徳性涵養」(道徳をわきまえた正しい品性を育てること)の手段として重視され、歌詞には「忠君愛国」の精神を養成するのにふさわしいものが選ばれるようになっていきます。この傾向は、大正初期に発行された『尋常小学唱歌』や、昭和16(1941)年に国民学校の音楽教科書として発行された『ウタノホン』と『初等科音楽』にも引き継がれます。学校でうたわれた曲の中には、季節の歌や子どもの生活に即した歌の他に、教訓的な歌や、戦争に関する歌が多く含まれています。音楽は、個人の自由な感情を表現する手段としてよりも、知識を身につける手段として、あるいは一

致団結するための手段として用いられていたことがわかります。『尋常小学唱歌』に収録された曲は、『尋常小学読本』や地理、歴史など他教科で学ぶ内容を歌詞にしたものも多く、現在言うところの「教科横断型」になっています。

戦後になると音楽の教科書は大きく変わり、歌だけでなく、楽器の演奏や音楽鑑賞、創作など幅広い内容を扱うようになりました。歌の種類も広がりました。「うみ」(海は広いな大きいな)や「茶摘み」(夏も近づく八十八夜)のように『尋常小学唱歌』から引き継がれた歌もありますが、大正時代に作られた童謡や、外国(主に欧米)の歌も加わり、楽譜の読み方を子ども達にわかりやすく教える工夫が見て取れます。楽器に関しては、カステネットやタンブリン、鍵盤ハーモニカやリコーダーなどが音楽の授業で使われる代表的な楽器となりました。

時代が下るにつれ、教科書が扱う音楽の種類は多様化していきます。ポピュラー音楽の楽曲が掲載されるようになり、近年の教科書には、スタジオジブリの映画主題歌や、SMAPの曲、ザ・ビートルズ(The Beatles)の曲なども載っています。演歌歌手が教科書に取り上げられたことで話題にもなりました。また、日本の伝統音楽や、世界の諸民族の音楽を教えることにも重点が置かれるようになってきています。

音楽の教科書の歴史を振り返ることは、日本の音楽文化の歴史を振り返ることでもあります。わたしたち日本人が、この100年間にどのような音楽を教えられ、どのように音楽と向き合ってきたのかを、教科書の移り変わりを見ることで確認することができるのです。



1 『小学唱歌集』

文部省音楽取調掛編纂 発行者:高等師範学校附属音楽学校
初編:明治14(1881)年11月発行
第二編:明治16(1883)年3月発行
第三編:明治17(1884)年3月発行

日本で編纂された最初の唱歌集。アメリカやスコットランド、アイルランドなど外国の歌に日本語の新しい歌詞をつけたものと、日本人が作曲した歌の両方が含まれている。この唱歌集に収録された外国曲の中には、「蛍の光」「ちょうちょ」など今でも歌われている曲が多い。



2 『尋常小学唱歌 第五学年用』

文部省 大正2(1913)年2月(緒言記載)

尋常小学校で「唱歌」が必修となったのに伴い編纂された教科書。すべて新作で外国曲は含まない。五年生用の唱歌集には、「鯉のぼり」「海」(松原遠く消ゆるところ)「冬景色」など戦後も文部省唱歌として親しまれた歌が含まれている。「冬景色」では五年生の国語の教科書(『尋常小学読本巻 十』)に掲載される「冬景色」と題された文章で描かれる情景がうたわれる。他に、「加藤清正」「水師營の会見」のように、歴史上の人物や出来事をうたった歌も収録されている。



3 『ウタノホン(上)』

モンブショウ(文部省) 東京書籍
昭和16(1941)年3月検定

昭和16(1941)年に発足した国民学校の音楽教科書として『ウタノホン』(上下2巻)と『初等科音楽』(全4巻)が作られた。「兵タイゴッコ」「靖国神社」「軍旗」「少年戦車兵」「無言のがいせん」「三勇士」のように戦意高揚や国防軍備に関する歌が多く、敗戦直後には、いわゆる「墨塗り」の対象となったものもある。



4 『たのしいおんがく』

井上武士、服部龍太郎、外山国彦、下総皖一 共著
日本教育図書 昭和23(1948)年発行

昭和22(1947)年に「学習指導要領 音楽編(試案)」が作られ、「音楽美の感得をめざす芸術教育としての音楽教育」へと大きな転換がはかられた。新しい学習指導要領に基づいて作成された昭和23年発行の教科書のカラフルな表紙は、新しい時代が始まったことを実感させてくれる。



5 『音楽のおくりもの 6』

三善見(監修)教育出版 平成17(2005)年1月発行

平成14(2002)年より実施された学習指導要領では、日本の伝統音楽や世界の諸民族の音楽の比重が増えた。特に中学校では和楽器の実技が必修となり、日本の楽器の音を生徒が自ら体験するようになった。小学校の教科書でも、世界のさまざまな地域の音楽が紹介され、視聴覚教材を利用して世界の音楽を学校で学ぶ時代になった。

第19回

My Favorite Books

学生の読書室

私が選ぶ
この一冊

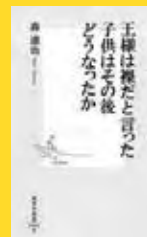


中等教育教員養成課程
国語教育専攻4年
安倍 頌人



『王様は裸だと言った子供はその後どうなったか』

森達也 著/集英社/2007年8月17日発行
ISBN:9784087204056

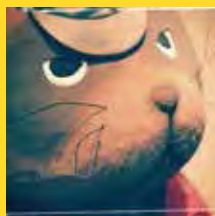


本書は、表題作を含む、芥川の蜘蛛の糸から、ディズニーの名作、果ては仮面ライダーまで誰もが知っているような古今東西の15の物語をドキュメンタリー作家である森達也がパロディ化した小品集である。

現代社会における諸問題に対して、作者独自の毒気たっぷりユーモアたっぷりのななめの視点から無遠慮に切り込んでいく。

私のお気に入りには、第三話の仮面ライダーの章である。なんと正義の味方である仮面ライダーを取り上げるのではなく、世界征服を目指す悪の組織の視点から物語をつむいでいく。冒頭では、ショッカー26号が居酒屋でホッピーと焼き鳥の盛り合わせを注文し、娘の手術費用の為、自爆装置の改造手術を受けるかどうか悩んでいることを32号に打ち明ける。「人は誰だって家族を愛し、同胞を守る。悪の結社だって同じことだ。」筆者は、得意の「妄想」力で、組織に内在する問題を強烈に、かつ非常にユーモラスに描き出す。

他にも桃太郎や赤ずきんちゃんなど、とにかく、作者の個性が光る逸品ぞろい。気張らずに一読ください。



中等教育教員養成課程
社会科教育専攻4年
岡田 駿



『宙(そら)の名前』 新訂版

林完次 著/角川書店/2010年6月30日発行
ISBN:9784048544832



私が紹介したい本は角川書店が刊行しているネイチャーシリーズの一つ『宙(そら)の名前』という本です。この本はオールカラーで天体に関するいろいろな写真とその説明や神話がかかれていて、自分は天体観測が趣味で流星群の日などはカメラを持って観測に出かけるのですが、この本で使われている写真はとても綺麗で実際に見ているかのような気持ちになります。流星群はもちろん月や星の様々な天体ショーを鮮明な写真で見ることができ、何度も読み返してみたいような一冊です。季節ごとの天体に分けてあったり、後ろのページには索引も付いていたり、天体の事典のような使い方もできるのでとても便利です。角川書店のネイチャーシリーズは他にも『空の名前』『色の名前』『月の本』『森の本』など様々な本が出版されています。ふと眺めた夜空に浮かぶ天体にどんな名前がついているのか気になった方は、読んでみてはいかがでしょうか。

原稿大募集

「こもれび：宮城教育大学附属図書館ニュース」は皆さんの投稿で成り立っています。特に「学生の読書室」は学生の皆さんのお薦めの本を紹介してもらうコーナーです。読後の感想や想いをこの場で表現してみましょう！皆さんからの投稿をお待ちしています。下記の必要事項を記入の上、いずれかの提出方法をお選びください。

必要
事項

- コース・専攻、学年、お名前、連絡先
- 紹介したい本のタイトルとその著者名、出版社
- 紹介文(400字程度)

提出
方法

- 次のメールアドレスあてに提出してください。
toshokan@staff.miyakyo-u.ac.jp

注意事項

- こもれび次号は3月発行です。● 原稿は、こもれび編集委員会で選定の上、掲載します。● 採用された原稿は図書館ホームページにも掲載されます。



中等教育教員養成課程
国語教育専攻 4年
熊谷 真帆



『先生はえらい』

内田樹 著／ちくまプリマー新書、筑摩書房／2005年1月25日発行
ISBN:9784480687029



大学の勉強、何か違う？ NHKの白熱教室に比べたら、うちの大学の授業はしょぼい、教育大に来たはずなのに「いい先生なんていないじゃないか！」そう思っているみなさんにおすすめする、目から鱗の先生の定義、「あなたがえらいと思った人、それが先生」。教授も、学校の教師も、彼らを「先生」にグレードアップするのは、あなた自身！

私がこの本を読んだのは1年生の授業の課題図書だったからです。そしてこの本は私の大学生活の学びの指針になっています。高校までは先生は「答え」を教えてくださいました。でも、本当の学びは自分で行動することから始まると気づかされました。4年生になり、卒業研究をしています。尊敬する「先生」との出会いから「謎」が生まれ、もっと知りたいという思いから、勉強しています。万人にとっていい先生なんていません、いや、いたら困る！先生は「わたしだけのもの」。この本をきっかけに、あなたの「先生」を探し出す旅が始まるはず…。

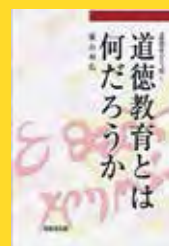


教職大学院
専門職学位課程
高度教職実践専攻1年
沼波 翼



『道徳教育とは何だろうか』

横山利弘 著／暁教育図書／2007年7月28日発行
ISBN:9784252782891



道徳教育の入門書としてとてもおすすめの一冊です。教育改善のために求められていることを道徳教育の観点から解説している第一章。道徳教育そのものの定義を述べた第二章。子どもの何を育てるのかを述べた第三章。子どもを育てる環境について、これまでの変化とともに述べた第四章。付録として講演録。このような構成で書かれています。

学部生の時にあまりこの類の本を読んでこなかった私が初めて手に取った教育書ですが、読んでみて感じたのは非常に内容が分かりやすく、スラスラと読むことができるということ。まだあまり予備知識が無い学生にとっても、ある程度予備知識がある学生にとっても、道徳教育の理解に役買ってくれる本だと推薦できます。

学部生、大学院生問わず、これから教員になる皆さんが道徳教育について学びたいと考えたとき、最初にこの本を手に取り、勉強してみてください。2013年6月現在図書館に所蔵されてはいませんが、コースや専攻で一冊買って回し読みなどをする価値が確かにある本です。



初等教育教員養成課程
美術コース1年
浅沼 香織



『こころの処方箋』

河合隼雄 著／新潮文庫、新潮社／1998年6月1日発行
ISBN:9784101252247



自分自身や他人の心はままたぬものである。そのことについてちょっとでも真面目に考えるとゾッとするほど恐ろしい。恐ろしいのだが、ままたぬ心を持って思い通りにふるまおうとする人間はどこか滑稽でかなしい。私たちは常に葛藤に悩まされる。それは、ままたぬ「わたし」というものが思いどおりの完全な存在を追い求めてしまうからかもしれない。そしてその耐えがたいまでのエネルギーは時に破滅を、時に新たな創造を私たちに与えてきた。この本の中には、ヘルマン・ヘッセのデミアンよろしく、正攻法ではとらえきれない逆説的な囁きがいっぱいだ。しかし、その言葉は常に真実を鋭く見抜いている。臨床心理学者として人の心の中の深い苦しみや葛藤と向き合ってきた河合隼雄の、かなしきをもった優しさと静かな洞察の光る本である。





Inside story

宮教大図書館の裏話

うらばなし

宮城教育大学の方はログイン▼

第参話

宮教図書館ではいったいどのような業務が行われているのでしょうか？ その一部をつぶやきます！

みせる図書館員

本の貸出だけじゃない！ 図書館をいろいろ「魅せる」仕事を紹介します



目録管理担当：S

私の普段の仕事は図書館の本の装備を担当していて、電動書庫等の本にバーコードを貼ったり、背ラベルなどを整える処理をしています。その他館内の省エネパトロール（電気の無駄をチェックします）を行ったりしているのですが、今回は図書館を「みせる」ための仕事内容についてお話ししたいと思います。

■ のりづけ

まずは本の装備の一つである「のりづけ」に関してです。本の背表紙に三段の請求記号ラベルが貼ってあるのを皆さんご存知でしょうか。のりづけとは、シールで貼ってあるだけのそのラベルが剥がれないように、上からのりを塗る作業のことです。ラベルを貼ってのりで塗ってしまった後はやり直しは難しいので、常に一発勝負の心構えで作業にあたっています。

二種のラベル貼り
のりぬり



■ グリーンカーテン

二つ目は、夏場限定のことになりますが、図書館南側のグリーンカーテンの世話をしています。

担当するのは木・金曜日ですが、私自身植物、特に食べられる植物は大好きなので、とてもやりがいがあります。早く成長するようにと心の中で思いながら水をかけるひとは、とても心が洗われます。成長記録はフェイスブックで公開しているの、ぜひ見てみてください！



成長が楽しみ

■ 書架清掃

最後にご紹介する仕事は閲覧室の書架清掃です。

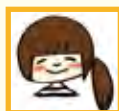
1日で一階と二階の閲覧室の書架を全て一人で掃除します。書棚の上から下までの作業になるので、踏み台に乗ったり降りたりするのがきついですが、体力には自信があるので大丈夫です。

本の並んでいない書棚は埃が多く見られますが、本そのものの状態はそれほど汚れもなく破損したものもあり見当たらないので、皆さんが綺麗に使ってくださっているのだなぁと嬉しくなります。ただ、書棚から抜いて読んだ本を元の場所に戻さずその辺に置いたりすると掃除の妨げになり、何より本自体が見つからなくなるので、気を付けてください。これは特に二階の閲覧室に多いようです。あとは、返却日の書かれたレシートが書棚に落ちていくことがよくあります。個人情報なのできちんと持ち帰ってくださいね。

どの仕事も自らの手で図書館をよりよく「みせる」ことが出来るようにと、頑張っています！



ごしごし



サービス担当：A

カウンターでの本の貸出返却と、ILLの受付を担当しています。また、楽しく本を手にとってもらうために展示コーナーを作成しています。どのように展示コーナーを作っているのかをご紹介します！

■ まずは展示のイメージを考える。

今回の展示は「図書館教養講座：海外を知ろう」と連携した展示でした。地球儀と世界地図を使うことが決まっていたので、どのように展示すればいいかを考えます。

また、講座で紹介する国がどこにあるのか分かりやすくするために、各国の民族衣装のマスケットを作成し、地図上に載せることにしました。

こんな感じ？ 完成!!

こんな感じ？



ラフを書いて…

■ イメージが決まったら、実際に作成

マスケットを作るために、図書館の本で衣装を調べて簡単にラフを書きます。

そこからパソコンに取り込み、形を整えたり、色をつけたりして見本の完成です。留学生の方に見ていただける機会があったので衣装をチェックしてもらいました。

実際の現地の写真をいただいたので、それを元に洋服の柄や髪形などを修正しました。他にもタイトルや地球儀の飾りつけを作っていきます。



できた!



べたべた



チョコチョコ



■ 素材が完成したので、展示開始!

展示は図書館ボランティアの方に手伝ってもらいました。

本をどう並べれば手に取ってもらえるか相談しながら展示していきます。

■ 完成!!

展示コーナーの完成です! 毎回いろいろなテーマの展示をしていますので、ぜひ入口脇の展示コーナーをチェックしてみてください!

完成!!



本学教員等著作寄贈図書一覧 (平成24年4月～平成25年3月受贈分)

田中 良英 [社会科教育講座] ロシア史研究案内 共執筆者: 田中良英 彰流社/2012年

黒川 哲也 [保健体育講座] 宮城の体育実践:「一種の心の発明による典型の創造」をめざして 共執筆者: 黒川哲也 創文企画/2012年

田端 健人 [学校教育講座] 学校を災害が襲うとき: 教師たちの3.11 田端健人著 春秋社/2012年

小畑 千尋 [音楽教育講座] 「音痴」克服の指導に関する実践的研究 小畑千尋著 多賀出版/2007年

編集後記

子どもの読書活動の推進は、近年の我が国の文教政策の重要な課題のひとつとなっています。教育大学の附属図書館としてこの課題に積極的に取り組みたいとの考えから、「こもれび」では児童書紹介コーナー「子ムエの本棚」を今号より設けました。児童書の魅力を伝えるとともに、児童書および子どもの読書にかかわる学生の皆さんの活動を支援するようなコーナーにしたいと思っています。新設を記念して、今号だけ特別に折り込みの形による4ページ見開きの設定にしましたので、特集「もっと知ろう! 宮教大の児童書」からの展開も楽しんでいただければ幸いです。

「子ムエの本棚」の「子」は子どものこと、「ムエ」は、本学附属図書館キャラクター「MUE(ムエ)」の名前です。キャラクター誕生から約2年がたち、HPや図書館グッズにも登場していますので、「MUE(ムエ)」の存在も徐々に認知されてきたのではないのでしょうか。「MUE(ムエ)」には、今後さらに図書館と学生の皆さんをつなぐ役割を担ってほしい…。そんな思いを込めて、今号からしばらくの間、「こもれび」の表紙でも「MUE(ムエ)」くんに活躍してもらうことにしました。今回の表紙の「MUE(ムエ)」くんの心の声は、「児童書らぶ♡」です。

本誌の内容や宮城教育大学附属図書館の活動・運営に関するご意見・ご要望がございましたら、いつでも図書館カウンターまたは下記連絡先までお寄せください。



宮城教育大学附属図書館

こもれび No.124

【編集発行】
宮城教育大学附属図書館
運営委員会

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149

TEL: 022-214-3350

E-mail: toshokan@staff.miyakyo-u.ac.jp

附属図書館公式サイト

http://library.miyakyo-u.ac.jp/

図書館 Topics

教科書特別展

『歴史のなかの教科書
～高度経済成長期の教育～』開催



7月31日(水)から8月8日(木)まで、教科書特別展を開催します。昭和20～40年代の小学校教科書を幅広く展示します。日本の社会が大きく変わったこの時代について、テーマ毎に解説するほか、教科書以外の関連資料や関連動画もお見せします。入場無料ですので、ぜひご覧ください。



このパンフレットは環境に配慮した「水なし印刷」により印刷しております。

環境にやさしい植物性インク「VEGETABLE OIL INK」で印刷しております。